

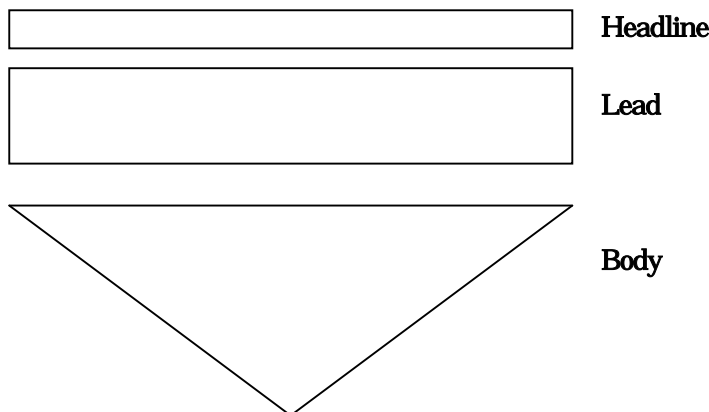
科 目	必・選	担 当 教 員	学年・学科	単位数	授 業 形 態							
時事英語 ( Current English )	必	森川 寿	1 年生 メカトロニクス専攻 エコシステム専攻	2	前期 週 2 時間							
授業概要	英字新聞や雑誌の読解を通して、英語読解能力の向上を図りながら、現代の日本と世界の動きを学ぶ。 TOEIC のワークブックによる演習を交え、TOEIC 受験を含めた実践的英語力の養成に努める。 TOEIC の団体特別受験 ( IP ) を実施して個々の英語力の把握と向上に役立てる。											
到達目標	英字新聞の記事を、辞書の助けを借りながら、すばやく要点を理解できるようにする。 TOEIC のテスト形式に慣れ、日常生活のコミュニケーションでおおよそのニーズを充足するレベルの得点を取得する。 現代の日本と世界の政治・経済・科学の動きについて一般的な理解ができる。											
評価方法	試験 60%、小テストおよび課題 40% なお、TOEIC の IP 試験や公開試験で 400 点以上取得した場合は、評価に 10 点を加算する。											
教科書等	各種英字新聞やインターネットの記事をプリントして使用する。 <i>Effective Approaches to the TOEIC Test</i> 田中清美 / 和田ゆり 編著 他 ( 南雲堂 ) 主に後期『実用英会話』のテキストであるが前期から随時使用する。											
内 容	( 1 1 0 分授業を 1 5 回実施する。なお、1 回の自宅演習は 2 4 0 分を目処にする。 )				学習・教育目標							
第 1 回	オリエンテーション、英字新聞の読み方(1) Headline の説明と演習			( 自宅演習 )	D							
第 2 回	英字新聞の読み方(2)、Lead の説明と演習			( 自宅演習 )	D							
第 3 回	短い記事の読解演習(1)			( 自宅演習 )	D							
第 4 回	短い記事の読解演習(2)			+ 教科書 Unit 1 ( 1 ) ( 自宅演習 )	D							
第 5 回	「社会」記事の読解演習(1)			+ 教科書 Unit 1 ( 2 ) ( 自宅演習 )	D							
第 6 回	「社会」記事の読解演習(2)			+ 教科書 Unit 2 ( 1 ) ( 自宅演習 )	D							
第 7 回	「社会」記事の読解演習(3)			+ 教科書 Unit 2 ( 2 ) ( 自宅演習 )	D							
第 8 回	「環境・科学」記事の読解演習(1)			+ 教科書 Unit 3 ( 1 ) ( 自宅演習 )	D							
第 9 回	「環境・科学」記事の読解演習(2)			+ 教科書 Unit 3 ( 2 ) ( 自宅演習 )	D							
第 1 0 回	「政治・経済」記事の読解演習(1)			+ 教科書 Unit 4 ( 1 ) ( 自宅演習 )	D							
第 1 1 回	「政治・経済」記事の読解演習(2)			+ 教科書 Unit 4 ( 2 ) ( 自宅演習 )	D							
第 1 2 回	< TOEIC IP 受験 >			( 自宅演習 )	D							
第 1 3 回	「外交・国際」記事の読解演習(1)			+ 教科書 Unit 5 ( 1 ) ( 自宅演習 )	D							
第 1 4 回	「外交・国際」記事の読解演習(2)			+ 教科書 Unit 5 ( 2 ) ( 自宅演習 )	D							
第 1 5 回	授業のまとめ & テスト			( 自宅演習 )	D							
( 特記事項 ) 9 0 分授業の場合は、上記内容を 1 5 週間に 1 8 回の授業で実施する。		JABEE との関連										
		JABEE	a	b	c	d1	d2a)d)	d2b)c)	e	f	g	h
		本校の学習・教育目標	A	A	C	C	C	B	B	D	C	B

合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

## 時事英語 Current English ガイダンス

### News Storyの構成

新聞ニュースの記事は、見出し(Headline)と、前文(Lead)、および本文(Body)の3つからできています。見出しは読者の注意を引くもので、簡潔な表現を求めて、いくつか特徴的な表現が用いられます。前文は、記事全体を要約するものです。



本文は、「逆三角形」の構成をしていて、より重要な内容が先に書かれています。つまり、途中で読むのを止めても、ある程度重要な内容は頭に残るというわけです。

### Headlineの特徴

読者の注意を引くため、省略と短縮化が最も多く使われる部分です。

1. 冠詞は、原則として省略されます。

(A) Long-lost wallet returns to *(its)* owner (長く失われていた財布が持ち主に戻る)

2. Be動詞は、原則として省略されます。

- 1) 進行形の“be 動詞 + 現在分詞”のbe 動詞は省略されます。

McDonald's *(is)* investing in Russia (マクドナルド、ロシアに投資)

- 2) 受動態の“be 動詞 + 過去分詞”のbe 動詞は省略されます。

43 *(are)* killed in *(a)* plane crash (墜落事故で43人死亡)

- 3) 予定・近未来を表す“be going to”のうち“be going”は省略されます。つまり、不定詞は、予定や未来を表すのに使われます。

Koizumi *(is going)* to visit China in May (小泉首相、5月に訪中)

3. 現在形は、通常、過去(あるいは現在完了)を表します。

Asashoryu wins ( *won*) New Year tournament (朝青龍、初場所優勝)

4. コンマは、接続詞(and)の代用

Japan, Tonga sign agreement [ Japan *and* Tonga ...] (日本とトンガ、協定に調印)

5. 略語の多用

IMF [International Monetary Fund] (国際通貨基金)

NATO [North Atlantic Treaty Organization] (北大西洋条約機構)

6. 短縮形の多用

Gov't (またはGovt) [Government] (政府)

N. Korea [North Korea] (北朝鮮)

### LeadとBodyの特徴

Leadは、記事全体を要約するもので、5W1H (When, Where, Who, What, Why, How) の要素の全てが必要なものが、要領良くまとめられているので、それを探して読むようにすれば記事のおおよその内容が把握できます。

Bodyが、より大事なことから始めて徐々に細かい点に移っていくことは上で述べましたが、各段落の中でも、「内容の要約・要点 補足説明」という流れが原則になっています。読者にまず結論を伝えるというのが新聞の基本姿勢なのです。